

1. 福山都市圏交通円滑化総合計画の概要

(1) 策定の経緯

全国的な交通円滑化の動き

1997年12月 「京都議定書」採択

1998年6月 「地球温暖化対策推進大綱」決定

⇒「交通円滑化総合計画」の推進（「交通混雑による環境（CO₂）問題への注目」）

2004年 「地球温暖化対策推進大綱」評価・見直し

2005年4月 「京都議定書目標達成計画」決定

⇒1990年に對し、「-6%」の排出削減目標

2008年3月 「京都議定書目標達成計画」決定（全部改定）

2015年12月 「パリ協定」採択

⇒日本では、2030年度に2013年度比「-26%」の排出削減が目標

2016年5月 「地球温暖化対策計画」閣議決定

2021年10月 「地球温暖化対策計画」閣議決定

⇒2030年度に2013年度比「-46%」の排出削減が目標

福山都市圏の動き

2002年3月 「福山都市圏交通円滑化総合計画」を策定

2002年11月 「福山都市圏交通円滑化総合計画推進委員会」を設置

2003年11月 「福山都市圏交通円滑化総合計画」実施都市圏の指定

⇒短期目標期間：2003～2007年度（H15～H19年度）

2005年11月 「環境行動計画モデル地域」の指定 ⇒指定期間：2006～2008年度

2009年10月 「福山都市圏交通円滑化総合計画」5ヶ年計画の策定

⇒目標期間：2008～2012年度（H20～H24年度）

2013年3月 「福山都市圏交通円滑化総合計画」⇒目標期間：2013～2017年度（H25～H29年度）

2018年3月 「福山都市圏交通円滑化総合計画」⇒目標期間：2018～2022年度（H30～R4年度）

2023年3月 「福山都市圏交通円滑化総合計画」⇒目標期間：2023～2027年度（R5～R9年度）

福山都市圏交通円滑化総合計画の目的

▶ 福山市を中心とした都市圏において、重点的な交通基盤整備による交通容量拡大施策に加え、交通需要マネジメント施策、マルチモーダル施策を組み合わせて、総合的な対策を講ずることにより、都市圏の交通渋滞解消・緩和、温室効果ガスである二酸化炭素排出量の削減、都市交通サービスの向上を図ることを目的とする。

○関係機関との連携による多様な施策展開

- ・国土交通省、警察庁、県、市町村、交通事業者により計画を策定し、関係機関が協力・連携しながら多様な施策展開を図る。

2. 本期5ヶ年計画の実施計画(2023~2027年度)

(2)目標の設定

- ・前期は目標が未達成であったため、引き続き「①所要時間短縮」と、「②CO2排出量の削減」を目標として、円滑化の実現に向けた取り組みを進める。

目標指標	前期(2018~2022年度)	本期(2023~2027年度)
①所要時間の短縮 朝ピーク時において、備後・井笠地域の主要6方面から、福山市を中心部への自動車での所要時間を短縮 (ETC2.0プローブ情報でモニタリング) ※1:コロナ禍前の2018年との比較 方面別の状況は、次ページ参照	<p>【目標値】 229分(23分短縮※1)</p> <p>【参考】前期(2022年度)実績 267分(15分増加※1)</p>	<p>【目標値】 229分(23分短縮※1)</p>
②CO2排出量の削減 備後・井笠地域の自動車から排出されるCO2を削減 (ベスト運動参加者数でモニタリング) ※2:1年間に1回以上参加報告した ベスト運動会員数	<p>【目標値】 ベスト運動4,500人/年参加※2</p> <p>8.6千t-CO2</p> <p>【参考】前期(2022年度)実績 ベスト運動1,794人/年参加※1 2.8千t-CO2</p>	<p>【目標値】 ベスト運動4,500人/年参加※2</p> <p>8.6千t-CO2</p>

2. 本期5ヶ年計画の実施計画(2023~2027年度)

【参考】方面別の所要時間短縮について

- ・前期(2018~2022年度)は、コロナ禍の影響で、一時的に所要時間が増加した可能性がある。
- ・そのため、コロナ禍の影響のなかった2018年度を基準に設定された、本期5ヶ年の目標値を、次期5ヶ年においても維持する。

▼方面別所要時間の目標値

	コロナ禍の影響がない 2018年度			
	所要時間			
	ピーク	オフ ピーク	差	差の 割合
井原方面	48分	37分	11分	23%
府中方面	58分	45分	13分	22%
尾道方面	46分	37分	9分	20%
沼隈方面	39分	28分	11分	28%
鞆方面	28分	28分	0分	—
笠岡方面	33分	27分	6分	18%
合計	252分	202分	50分	20%

参考

(神辺)	(29分)	(19分)	(10分)	(34%)
(松永)	(34分)	(23分)	(11分)	(32%)

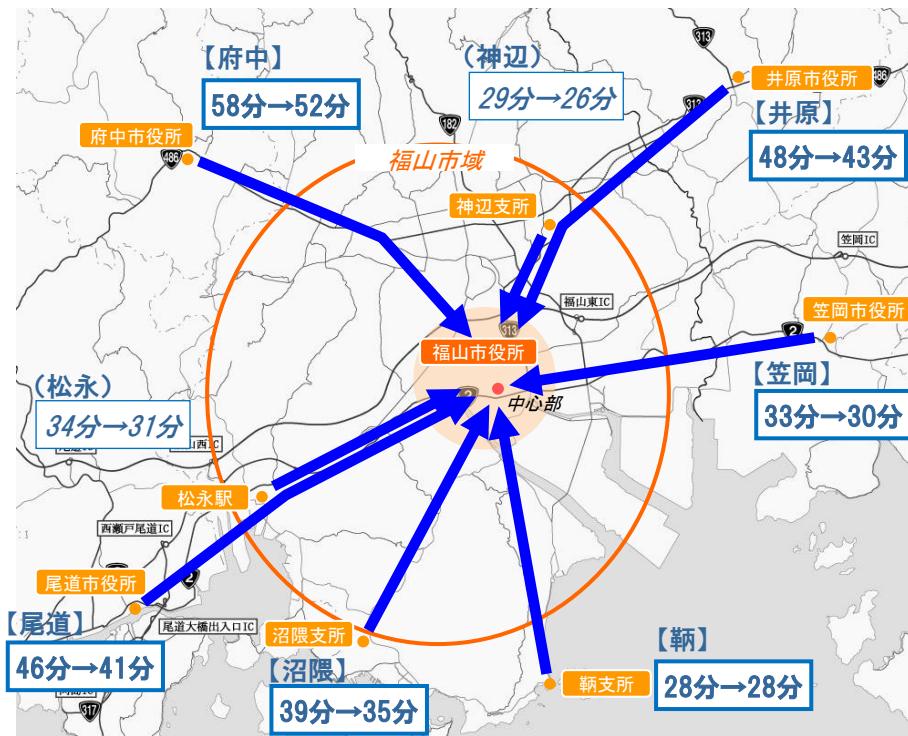
【目標設定の考え方】

- ・ピークの所要時間をオフピークの所要時間に近づける。
- ・ピークとオフピークの差が大きい場合は、10%の短縮を上限とする。

次期5ヶ年目標値 (本期5ヶ年目標値)		【参考】 2022年度
目標 時間	短縮 時間	所要 時間
43分	5分	52分
52分	6分	60分
41分	5分	55分
35分	4分	39分
28分	0分	29分
30分	3分	32分
229分	23分	267分

(26分)	(3分)	(33分)
(31分)	(3分)	(43分)

▼所要時間短縮の目標値



【方面】

＜凡例＞

2018年度の所要時間→2027年度の目標時間